

Motion Share

Motion Share

モーショで楽しくデータ交換

モーシオン 楽しい 直感的 データ交換

●高田 航太(未来大) ●高川 雄平(未来大) ●合田 和馬(未来大) ●菅 一生(未来大) ●渡邊 幸樹(未来大) ●堤 晴香(専修大) ●岡田 雄真(専修大) ●小林 あゆみ(専修大)
●矢田 裕康(専修大) ●古川 義人(神奈工) ●井上 千奈登(神奈工) ●千明 優喜(神奈工) ●原 達郎(神奈工) ●田口 裕介(法政大)

01 Motion Share とは

本サービスは、データ交換に「モーシオン」という人間の直感的な操作を加えることで、楽しくて手軽なデータ交換を実現する。従来のデータ交換は、送信者がコンテンツを選択して送信し受信者は待つだけの「単なる作業」となっている。「モーシオン」という人間の直感的な操作でデータ交換を楽しいものにするサービスを提案する。



02 利用形態

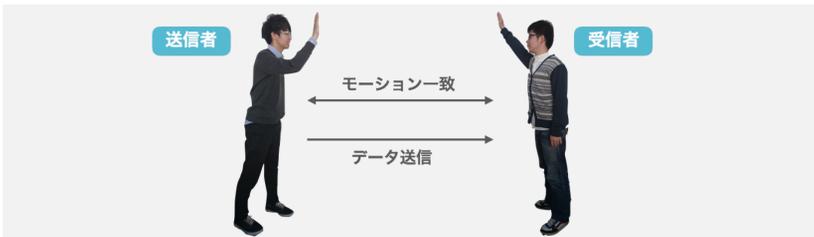
ユーザが自然なモーシオンでデータ交換ができるようにウェアラブルデバイスを対象にしたアプリケーションを開発した。スマートフォン本体のみでも利用が可能である。対象とするデータは写真・連絡先・スケジュールの3種類である。送受信のトリガーとなるモーシオンは、ハイタッチ・グータッチ・握手の3種類である。また追加でモーシオンの作成も可能である。



03 実現するための技術と仕組み

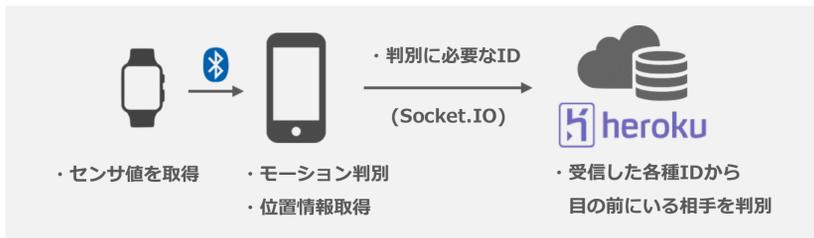
● データ交換プロセス

送信側・受信側ユーザのモーシオンが一致することでデータ交換を行う。送受信者の切り替えもモーシオンで行う。直近のデータを自動で選択するため、スマートフォンで送信するデータを選択する必要はない。



● 共有相手(目の前にいる相手)の特定

目の前にいる相手を判別するために、送受信者判別・モーシオンID・ユーザID・タイムスタンプ・位置情報を使用してサーバ側で判別する。判別後、送信側は各種コンテンツをbase64にエンコードして送信する。



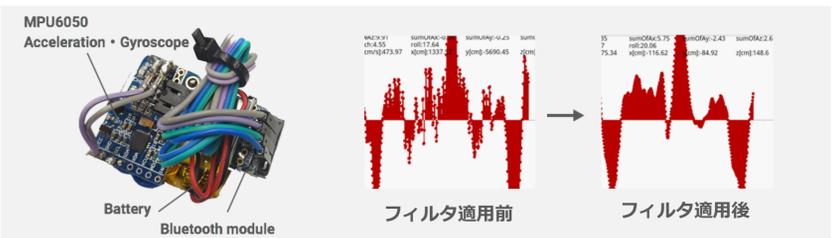
● モーシオン判別方法

モーシオン判別方法としてウェアラブルデバイスまたはスマートフォン本体に搭載されている加速度センサとジャイロセンサを使用した。細かなモーシオンをパーツ化し、それを組み合わせることでモーシオンを判別する。



● 専用デバイス開発

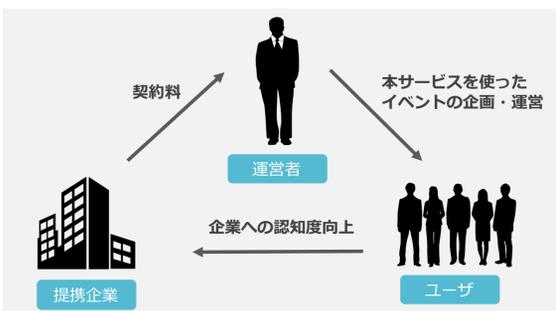
専用デバイスであれば、プラットフォームに依存せずに使用できる。加速度・ジャイロセンサの値をBluetooth経由で本体に送信する。モーシオンの誤判別を防ぐためにローパスフィルタを適用しノイズを除去する。



04 ビジネスモデル

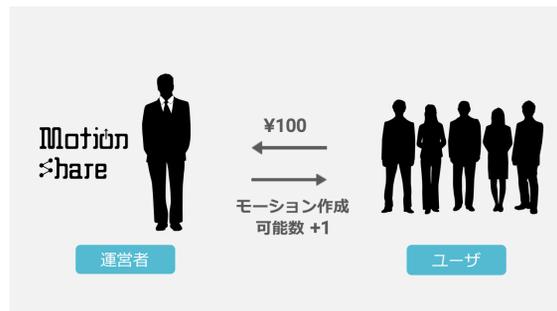
● 企業コラボ

提携企業は、企業の宣伝目的で本サービスを利用し、運営側と共に企業らしさを練り込んだモーシオンを考案する。そのモーシオンをユーザが行うことで、企業にとっては宣伝となり、ユーザにとっては企業のオリジナルモーシオン・グッズ・クーポン等がもらえるといった付加価値が生まれる。



● 課金モデル

本サービスの機能の1つである「オリジナルモーシオン作成機能」は3つまで無料で作成できる。それ以上のモーシオンを作成したい場合は、1つにつき100円課金することで追加でモーシオンを作成することができる。



● 専用デバイス販売

20~39歳男女177名を対象としたアンケートで「いくらならウェアラブルデバイスを購入するか」を聞いたところ半数以上の方が5,000円未満という回答を得た。原価を考慮した上で開発した専用デバイスを3,980円で販売し、利用者の拡大を図る。

